

まえ おな とき てがみ さんし とみがたむらみなみふくち みやした よいちろう りけい どうち かいあん
 前と同じ時の手紙であろう。三子は富県村南福地の宮下与一郎、里鶏も同地の人。開庵と
 いいじまりゆうさい きおく よ ひがしはるちかむらかみとのじまくわたしば さんこう いえ にちょうぐらい ところ
 いうのは、飯島柳哉の記憶に拠れば、東春近村上殿島区渡場で、山好の家から二町位の処
 しょうあん とおか かんくらいせいげつ でしたち ぐかい もよお ときせいげつ
 に小庵があって、そこで十日間位井月が弟子達と句会を催したそう。その時井月いわと
 こむすめ ごねんまえ ろくじゅうろく しきょ たの めしたき い そうき
 いう小娘・・・五年前に六十六で死去・・・が頼まれて飯焚をして居たことを想起すると。
 おそ いち じてきあんじゅう いいじまむら こやまだおりたろう しぞう
 恐らくその一時的庵住のそれであろう。(飯島村故山田織太郎氏蔵)

口上

ひま ひ うはな さかり
 隙な日のさしあふ花の盛かな

{「さしあう」は「かちあう」という意味。「毎日忙しく暮らしていますが、花盛りの今日、ちよ
 うど暇な日と重なりました」といった内容の句か。}

せんだつて ちゅうもうしあげおきそうろうとおり きたる じゅうはちにちいよいよかいあん ひろうしょ が てんかんかいこうぎょうつかまつりそうろうあいだ もん や せん う
 先達而中申上置候通、来ル十八日弥開庵披露書画展観会興行仕候間、門屋仙右

えもんさんこうかた そうちょう ごらいりん おとりもち ほどひとえにねがいあげたまつりそうろう
 衛門山好方へ早朝より御来臨、御取持の程偏奉希上候。【以前から申し上げて置いた

とおり、来たる十八日、いよいよ開庵披露書画展観会を催しますので、山好の家へ早朝より来て
 いただき、おとりなしのほど、ひとえにお願いいたします。】{書簡 十七には光久寺と書かれて
 いる。まず山好の家に集まって、そこから光久寺へ向かうつもりなのだろうか。}

しょうほう まわ おおほん た りやくぎ しょうちゅう ごあんないかたわら おたのみもうしあげそうろうあいだ あしからず ごようしゃ
 諸方かけ廻り大繁多にて、略義ながら書中にて御案内旁御頼申上候間、不悪御用捨

なしくださるべくそうろう
 可被成下候 【あちこち駆け回り、大忙しなので、略儀ながら手紙でご案内ついでにお頼み申
 上げますので、あしからずご容赦ください。】

なにぶんにて お おいで ほど ちょうじょうねがいあげたまつりそうろう しょそとはいひ ばんばん もうしちぢみそうろう きんげん
 何分ニ而御さしくり御出の程、重畳奉願上候。書外拝眉万々と申縮候。謹言【と

にもかくにも、ご都合をつけておいで下さるよう、重ねてお願いいたします。書ききれないことはお
 目にかかって申し上げます。】

やよいじゅうよっか かみとのじ
弥生十四日 上殿しまより

せいげつはい
井月拝

さんし がけい
三子雅兄

りけい がけい はいどうよう
里鶏雅兄 俳当用